



どうぶつこうえん ニュース

No. 79
2011
spring

Topics

エリマキキツネザル新着

サル比較舎に新しいオスのエリマキキツネザル（アル）が2010年11月に来ました。それまでの当園のエリマキキツネザルは2009年にオスが死亡してしまったために、母親（ライル）とオスの子供の2頭で展示をしていましたが、新しいオス（アル）を導入するためオスの子を別の場所に移動し、オス（アル）をケージの中に入れて、メス（ライル）とお見合いを行うことにしました。始めの3日間ほどは、ライルはアルのいるケージ越しに激しく攻撃し、エサも食べませんでした。アルのほうは、ケージの中でモクモクとエサを食べてのんびりしています。お見合い8日目にアルとライルを入れ替えて、ライルをケージの中に入れてアル1匹で部屋と展示場に慣れてもらい、ライルにいじめられた時に逃げられるようにしました。アルが来て13日目の11月18日に初めてアルとライルと一緒に展示場に出してみると、何も問題を起こすこともなく、たまにライルに追いかけているぐらいで大きなケガもすることなく2匹ですごしていました。ところが12月3日にアルを展示場に出すときに、右後足を引きずって歩いています。その日の午後に捕まえてレントゲンを撮ってもらうと右後足の踵を骨折していて、その日から2週間ケージの中にもどさなくては



ならなくなりました。やっと慣れてきたのに少しかわいそうですがしかたありません。今ではケガも治り足を引きずることもなくアルとライルは仲良くエサを食べたり日向ぼっこをしています。

エリマキキツネザルはマダガスカル島の東部の多雨林地域に分布しています。

鈴木 克典 (SUZUKI KATUNORI)

目次

CONTENTS

表紙【フンボルトペンギン】	①
トピックス	
【エリマキキツネザル新着】	②
ようこそ子ども動物園へ	③
卵の不思議	④ ⑤
バードウォッチング	⑤
飼育よもやま話	⑥
動物公園の動物	⑥
動物公園日誌から	
[10.10/1 ~ 10.12/31]	⑦
サポーター会員募集のお知らせ	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 フンボルトペンギン

ペンギンはペンギン目として、6属18種に分類されています。

フンボルトペンギンは、ケープペンギン属で、その他には、ケープペンギン、マゼランペンギン、ガラパゴスペンギンという近い仲間がいます。いずれも外観は、背中が黒く、腹は白く黒い斑点があります。また、分布域は、いわゆる、南極及びその周辺の島々にいるアデリーペンギン等のような極地ペンギン類と違って、南極海から北上してくる冷たい栄養豊富な、フンボルト海流が流れ込む海域で暮らしています。陸地で巣穴を掘ったりして営巣します。

ペンギン類の中で唯一ワシントン条約附属書Ⅰに掲載されており、野生個体は、16,000~20,000羽と推定されています。一方、国内の飼育個体数は、1,700羽余りと世界一です。しかし数がいても、国内の個体は、来歴不明な個体が多く、過去には、先に挙げたケープペンギン属の他の3種のいずれかと混合飼育をして雑種ができていたことから、生息域に野生復帰させることには、特に欧米からは異論を投げかけられています。その理由だけではありませんが、日動水の種保存委員会では、22年度の事業として、飼育個体全羽のDNA分析に着手しています。

小林 正典 (KOBAYASHI MASANORI)

撮影：宮川 千尋 (MIYAKAWA CHIHIRO)

動物飼育数

平成22年12月末現在の飼育数

哺乳類 65種444点

両生類 1種 2点

鳥類 70種298点

魚類 1種 1点

爬虫類 6種 29点

総計 143種774点

ようこそ！ 子ども動物園へ



大人と子どもと一緒に体験することの意味

子ども動物園は、1985年の開園以来、たくさんのお子さんに利用してもらっています。開園当初、来園した小学生たちの中には、もう、パパやママになって、ご自分のお子さんたちを連れて来園するかたもいらっしゃるのではないでしょう。

うつりゆく時の流れの中で、いつも変わらないのは、小さなお子さんを連れた家族連れの姿と、元気いっぱいな小学生や幼稚園・保育園の子どもたちです。最近は少し小学生が少なくなった感もありますが、逆に2～3歳のお孫さんを連れの方が増えてきています。

とくに人気なのは、ヤギとヒツジの広場での「うんこそうじ」**写真1**と「ブラッシング」体験、そして一日2回の餌やり体験**写真2**です。ちょっぴりお世話が体験できるとあって、道具の順番待ちもできる位です。また、小さな小さなハツカネズミたちと遊べるコンタクトコーナーも休日はお客様でいっぱい。長蛇の列ができます。ここでは、大人も子どもも一緒に時間を楽しんでいます。

では、大人と子どもと一緒に過ごせる時に、私たちが「大切にしてほしいなあ」と思っていることをご紹介します、その意味を考えてみたいと思います。

①他者視点を持つことは大切

小さなお子さん連れでいらっしゃるリピーターさんの中には、ご自分の子どもがどのように動物に興味を持ったり接しているかを、子どもの「成長の証」として確かめている場面によく出会います。動物の種類がわかるかどうか、接し方や餌のあげ方はどんなふうになってきたか、動物への声かけはできるようになったか、その変化をととても楽しみにしています。どんな小さな変化でも、それをもたらしてくれるのは、動物たちの存在であり、動物たちとのかわり合いを進めようとする、周りの大人の存在です。

自分の意のままにならない「別の生き物」が存在すること

を知り、その生き物のために何かしてあげようとする、それは他者の視点をもつことと言えます。

②「表現」することを大切に

ときどき、コンタクトコーナーでは、通称「アスレチック」と呼ぶ道具**写真3**を使って、小さなハツカネズミたちの行動がよくわかるようにしています。世話をする・さわってみる、という事の他に、じっくりと行動を見て、体の特徴とその行動の関係に気づいてもらうためです。発見したことを親と子でおしゃべりしてもらうようにしています。会話のきっかけをコーナーの係員がつくることもあります。「しっぽをどんなふうに使っていますか？」「しっぽとしっぽがふれあうと、ネズミさんはどんなふうに動いていますか？」…などその場に応じて働きかけています。

③「比べてみる」ことを大切に

また、短い時間の中では、たとえばテンジクネズミとハツカネズミの「食べ方比べ」をして、気づいたことをお話ししてもらうなど、動物を観る視点のひとつとして、「比べてみる」を大事にしています。また、目の前にいるわけではないけれど、よく知っている動物の姿を思い浮かべて比べてみることも行っています。たとえば、おうちでイヌを飼っていたら、しっぽ比べをしたり、まつげやひげの有無など、イメージしてもらい、記憶を引き出して比べてもらいます。こうした、イメージや記憶を引き出すことは、知的発達にとっても大きな役割を果たすといわれています。

最近は、「ファミリー・ラーニング」（家族でいっしょに体験しながら学ぶこと）への関心が高まっていますが、こうした、大人と子どもで何かと一緒に取り組んだり見たりお話し合う時間は、単にスキンシップというだけでなく、心の発達の点でも意義深いことのように思います。

並木 美砂子（NAMIKI MISAKO）



写真1



写真2



写真3

卵の不思議

tamago no fushigi

ヒト、ヤギ、ネズミ、ネコなどの哺乳類のほとんどは母親の子宮の中で、胎盤を通して栄養や酸素が運ばれ胎児が育ち産まれます。オーストラリアに住むカモノハシとハリモグラは軟らかい卵を産み、温め、孵化させミルクで育てます。

一方、魚やカエルなどのほとんどの両生類の卵はほとんどが水中に産み落とされ、育ち孵化します。しかし、爬虫類は水中生活から陸上生活になったため乾燥を防ぐことができ、かつ重力で中身が潰れないよう殻をもつ卵を産みます。ヘビ、トカゲ、カメなどの爬虫類は比較的弾力のある殻のものと硬い殻のものがあり、形は球形（例、ウミガメ）、長円形（ヘビ、ワニ）の卵を産みます。ちなみに恐竜も同じ二つの形の他、俵形（カプセル形）や洋ナシ形（一方の先が尖った卵形）の卵を産みます。化石で知られている最大の卵は長さ約50cmで、大人の恐竜の大きさの割りに小さな卵をたくさん産むことができました。

図①

卵形	ニワトリなど	
洋ナシ形 (円錐形)	ウミガラスなど 恐竜	
球形に近い物	ヤマセミ フクロウなど	
楕円形 (長円形)	エミュウ ダチョウなど 爬虫類	
俵形 (カプセル形)	爬虫類 恐竜	
球形	爬虫類 (ウミガメなど) 恐竜	

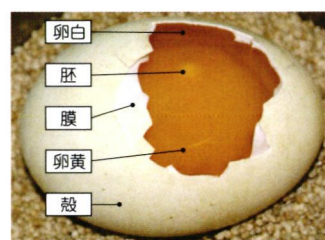
卵といえば一般的には硬い殻をもつ鳥の卵です。鳥は母親の左側の卵巣しか発達しておらず、一度に一個づつしか卵を作り出すことが出来ません。卵の構造を実物のガチョウの卵を例にみてみましょう。置かれている卵の上部の殻を中身が見えるように開けると、殻の下に薄い膜（二重になった卵殻膜）があり、透明な卵白を通して、卵黄が見えます。卵黄には直径2～3mmの白い点状の胚（胚盤）が見えます。胚は卵黄の上部にいつも位置するように、卵の長径方向に伸びる

白いひも状のもの（カラザ、ラテン語でchalaza）で卵黄が卵白の中央にくるよう、吊り上げられています。この白い点がヒヨコの元です。

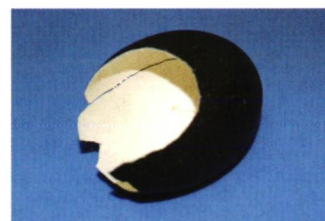
卵ができるプロセスは卵巣内で卵胞が発達し、卵胞から卵子が輸卵管上部の漏斗（ろうと）状に広がった部分に入り、オスの精子と出会い、受精すると輸卵管をゆっくりと通りながら、卵白、卵殻膜、卵殻の順で形成され、膣を通り、総排泄孔（フン、尿もここから出る）から産卵されます。卵子から産卵まで約25～30時間かかります。産卵は多くの鳥が昼行性の為、夜に殻が作られ、朝産むことが多いです。

卵殻は二層になっており、内側はどの卵殻も白ですが、外側は白のほか緑や茶色などの色や模様が付いたものがあります。殻の主成分は方解石結晶の炭酸カルシウムです。殻は液体の水は通しませんが、気体（酸素、二酸化炭素、水蒸気）は通す、微細な穴がたくさん（ニワトリの卵で7,000～17,000）開いています。卵殻は親鳥が上に乗って抱卵しても壊れない強度と、ヒナが殻を割って出てこられる壊れ易さを兼ね備えています。殻の外面にはクチクラ層（ラテン語でCuticula、英語読みでキューティクル）という薄い膜で覆われていますが、擦ったり、洗ったりすると取れてしまいます。このクチクラ層や殻、膜、卵白が雑菌の侵入を防いでいます。

卵の中身の比率は鳥の種類によって違い、ニワトリでは卵殻、卵白、卵黄が1：6：3です。卵黄の比率は少ないもので15%（カツオドリ）、多いもので70%（キーウィ）です。卵の形は図①のように分けられます。また色や模様もさまざま、真っ白いものから、色の付いたもの、模様のある



▲ガチョウの卵の殻を一部割ったところ

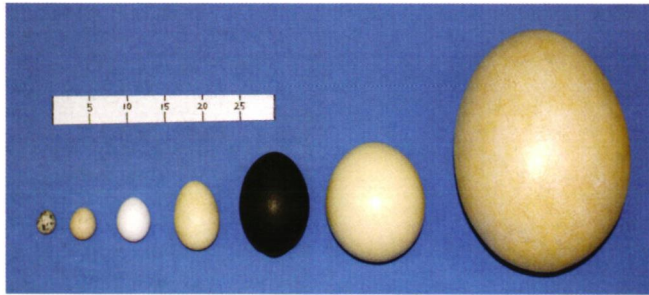


▲エミュウの卵の内側・外側



▲水中で中身を抜いたダチョウの卵に空気をポンプで入れると穴から空気が出てきます

ものなど、鳥の種類によって決まっています。木の洞など外から見つけにくい巣に産む卵は模様や色を付ける必要がないので白く、川原などの石ころの上に巣を作る鳥は見つけにくい模様のある卵を産みますが、例外もあります。



▲卵の大きさ比べ左から、ウズラ・チャボ・ニワトリ・ガチョウ・エミュー・ダチョウ（以上本物）・エレファントバード（レプリカ）

卵の大きさは親が大きいほど大きな卵を産みます。最小は長さ約1cm重さ0.3g（ハチドリ）、最大は約18cm、1,600g（ダチョウ）です。絶滅した鳥ではアフリカのマダガスカル島にいたエレファントバード（エピオルニス的一种）は34cm、10,000g（推定）ほどもありました。

親の体重当たりの卵の重さの比率は普通2～5%ですが、25%の卵を産む鳥（ハミングバード）もいます。

抱卵期間は10日（キツツキ）から80日（アホウドリ、キーウィ）です。多くの小鳥は12～14日で、ニワトリは21日です。

抱卵はオス・メス共に抱くのが鳥全体の半分、メスだけが4分の1、オスだけが20分の1で、それ以外はカッコウのように別の鳥の卵のある巣に産み、抱卵、育雛をしてもらったり、ツカツクリのように腐葉土の土の山を作り、その中に卵を産み、土をいじって温度を調整し孵化させるものもあります。

卵は酸素、二酸化炭素、水蒸気の出入りの他、雛が育つのに必要な栄養素、水分がすべて含まれています。また卵の中には雛が大きくなるにしたがって排泄される尿（主に白色の

尿酸）や糞を入れる袋（尿胞）もあります。雛が卵の中で一杯になる位大きくなると、雛は上の嘴の先端にある突起物（卵角または卵嘴）と首の後ろにある筋肉（孵化筋、孵化後短期間で委縮する）で卵の長径の半分ないし3分の1の所の殻を割り始め、出てきます。これを孵化（孵卵）といいます。

この孵化の過程をニワトリを例にとると、温度 $38\pm 1^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $65\pm 5\%$ の孵化器に入れるか親による抱卵が始まると、約18時間で消化器、約20時間で脊髄、21時間で神経系、22時間で頭部、24時間で目と心臓が形成され、約42時間後には心臓の鼓動が始まります。8日で羽毛が発生、10日で嘴が硬化します。そして21日で自力で殻を割って出てきます。

孵化後、2日間は腹部に包み込んでいる卵黄を栄養として消化し、エネルギーを補給しながら、オトナと同じ消化器官の発達を待ちます。2日を過ぎるとエサを食べ始め、約4ヶ月で大人になり卵を産み始めます。

雛は孵化してすぐに歩き回り、エサを食べる早成性のタイプ（ニワトリなど）と、目も開いていない丸裸で、巣の中で親鳥にエサをもらって大きくなる晩成性のタイプ（スズメ、インコなど）があり、その中間型のタイプもあります。

宝川 範久（TAKARAGAWA NORIHISA）



▲雛が自力で殻を割った（孵化）した卵



▲恐竜が孵化した時（想像模型）

動物公園 バードウォッチング

2月6日、動物公園ではバードウォッチングが開催されました。バードウォッチングといえば真冬の早朝という事で、毎年凍えるような寒さの中での開催でしたが、今年は例年よりも気温が高く、それほど寒さを感じる事なく開催することができました。天候のせい、例年より観察できた鳥が少なかったようでした。

この時期の大池周辺では、様々な鳥を観察することができます。大池にはカルガモやカイツブリが住みついており、羽を休める場所として渡り鳥のオシドリやコガモなども飛来します。また、池だけでなくその周りの木々にもアトリやメジロなど多くの鳥が集まってきて、初心者の方でも十分楽しめる観察スポットになっています。この大池には野鳥を観察するスポットも設置しており、一年を通じて様々な野鳥を自然な形で観察ができますので是非ご利用ください。

ただ、鳥と言っても様々な種類がいます。初心者の方は最初にスズメなどの身近な鳥を基準にして「スズメよりも少し大きいな」とか「体の色やくちばしの形が違う」など観察の幅を徐々に広げていけば良いと思います。





飼育よもやま話

ダチョウ

みなさん、ダチョウは動物公園のどこにいるかご存知ですか？草原ゾーンの真ん中にある広くて小高い丘、そこでダチョウたちを、シタツंगा、ハゴロモヅル、ホオジロカンムリヅルと一緒に展示しています。

現在、オス1羽、メス2羽を飼育しており、オスは昨年3月に、千葉県内の農業高校からやってきました。来園当初その個体は、新しい環境に変わったばかりのせいか、ずいぶんおとなしく、むしろしょんぼりして見えました。

私は昨年4月からダチョウの担当飼育係になったのですが、一番初めは、メス2羽が人見知りをしました。しかし3日程度で慣れ、私の事を気に入ってくれたようです。今では私の姿を見ると、走ってきて求愛ディスプレイをするまでになっています…。

そんな状態で、新入りのオスはメス達とうまくやっていけているのかと心配でした。様子が変わってきたのは、昨年6・7月頃の事です。私は毎朝、ダチョウ達を展示場内の小屋の外に出し、掃除をします。そして夕方になると、エサを持って彼らを誘導し、小屋に收容します。6月頃から、オスが私に対して、ときおり威嚇をし始めました。首をピンとまっすぐ伸ばし、翼を広げ、口を大きく開けます。そしてある日、ついに実力行使に出ました。ダチョウ最大の武器である足で、前方に蹴り上げてきたのです。ダチョウの足は力強く、しっかりした尖った爪がついています。もちろん私は全力で逃げました。彼の来園当初のしょんぼりした様子からは、想像もつかない姿です。しかしこれは、群れを守るオスダチョウのあるべき姿でもあります。

それから毎日、彼は私を威嚇し、積極的に蹴ろうとします。そしてその数日後から、メスダチョウと交尾している姿が確認されました。

こうなればもう、ダチョウと同じ空間に入るのは難しくなります。そこで、ダチョウ小屋の周りにバリケードの柵を作りました。ダチョウが外に出ているとき、展示場へ出入りする際は、観客通路からハシゴを使って、そのバリケード内に入ります。夕方、私が收容準備のために入ると、オスはバリケードの周りに近づきます。ここで見られるのは、担当飼育係を威嚇する姿です。

オスダチョウの攻撃的な姿からは、野生のダチョウがアフリカのサバンナでたくましく生き抜く様子がイメージできます。ダチョウの大きさ、大地を蹴る力強い足と爪、ふさふさとした美しい羽根を、是非動物公園で実物をご覧になって、確かめてみてください。

宮崎 沙都 (MIYAZAKI SATO)



体が黒いのがオス(右)
体が茶色いのがメス(左)
足はまるで恐竜のようです。



動物公園の動物

ケープペンギン

みなさん、ペンギンはどこに棲んでいるか知っていますか？

「南極！」という答えがたくさん聞こえてきそうですね。もちろん、大正解！！ペンギンのキャラクターやCMでも、ペンギン=氷の上というイメージがあります。

しかし、実はそうでないペンギンも沢山いるんですよ。赤道直下や森の中などに生息しているペンギンもいます。

たとえば、子ども動物園で展示されているフンボルトペンギンは、主に南アメリカ大陸のチリという国に生息しており、砂浜のサボテンの根元に巣を作ることがあります。

今日ご紹介する、鳥類水系ゾーンに展示されているケープペンギンは、主に南アフリカ(昨年ワールドカップが開催されたところ)の沿岸部に生息しています。巣は主に岩の割れ目や木の根もと、または砂地やグアノ層(水鳥のフンが堆積したもの)に穴を掘って作ります。なんと、南アフリカでは民家の軒先に巣を作ったケースもあるようです。

少し、ペンギンに対するイメージが変わったでしょうか？

そのケープペンギンは今、地球上で絶滅の危機に瀕しています。現在のケープペンギンの個体数は、20世紀初頭と比べると約10分の1になってしまったと考えられています。

なぜ、こんなにも個体数が減少してしまったのでしょうか？

理由はいくつかあります。たとえば、ケープペンギンの餌である魚を人間が乱獲してしまったこと、ケープペンギンの繁殖地を人間が破壊してしまったこと…。

しかし、最も大きな理由といわれているのが、石油の流出による被害です。ケープペンギンの繁殖地のうちの1つである喜望峯は、タンカーの交通量が多く、事故も起こりやすい場所といえます。

ケープペンギンたちが棲む海に流れ出た大量の石油は、ケープペンギンたちを体中石油まみれにし、口から体の中にも入り、いずれは死に追いやりします。石油が原因で何十万羽ものケープペンギンが死んだといわれています。

たくさんのボランティアや愛護団体が個体数を戻す努力を日夜行っていますが、現在も個体数はまだまだ元には戻っていません。しかし、私達がケープペンギンの置かれている現状を知り、何ができるのか考えることがケープペンギンの未来につながってゆくのではないのでしょうか。

石田 郁貴 (ISHIDA YUKI)



当園のケープペンギン



動物公園日誌から

'10年10月1日~'10年12月31日

- 10月1日 カピバラ、朝1時間ベアリング。マウントする(交尾できたらしい)。
 10月2日 写真教室開催
 10月3日 グレブーシマウマ、ライム(雄)、カエデ(雌)にマウントする。
 10月6日 スローリス、同居させる。午前中は追尾行動がみられるが、午後は別行動をとる。
 アカハナグマ(雌)、朝、左顔面の腫れものから排膿しているようなので、午後捕獲し入院。
 チンチラ(1頭)、繁殖。
 10月10日 ワンポイントウォッチング開催(プレーリードッグ)
 10月11日 シロオリックス(ラザニア、雌)、通路に放飼する。垂れていた耳、ピンと立つようになる。
 10月12日 全園停電。
 カラフトフクロウ、展示場の屋根の交換、止まり木の追加を行う。
 10月15日 マンドリル(雄)、脱毛部に毛が伸び、毛抜き行動は完全に収まっている。
 カピバラ、2頭を一日中展示。池の中で交尾する。
 10月16日 ワオキツネザル、寢室に大量の毛があった。コボ(雄)がミイ(雌)に追い回される。夕方、コボが入室せず、強制的に追い込んで収容する。ミイを予備室に隔離する。
 10月19日 ニシローランドゴリラ(雌、ローラ)、発情。キーパーにプレゼンティングする。
 シジュウカラガン、アカツクシガモ、ツクシガモ、マガモ、オナガガモを新水禽池に移動。
 10月20日 ヒロハシサギ(若)、羽毛に魚の脂汚れがひどいため洗浄してみる。
 10月22日 マンドリル(雄)、10:30頃、雌にかまれ、左前足が腫れる。投薬を行う。
 10月23日 マンドリル(雄)、先日のケガの足を使っており痛みはない様子。
 10月24日 ヒロハシサギ、脂で羽毛がべたついていたので、朝の清掃時に軽く水をかける。
 秋の講演会開催
 サポートーズデイ開催
 10月28日 ショウガラゴ、日中追い回しがみられたので巣箱の中をのぞくと仔1頭確認する。
コツメカワウソ(仔)、一番小さな個体(ベル)、あまりペレットを食べようとしない。成長が今一つ遅れるのはそのためかもしれない。
 緑が丘中学校生徒5名、職場体験29日まで。
 飼育係によるお楽しみDAY実施(動物病院)
 11月1日 コツメカワウソ(仔、ベル)、鶏頭を細かく切り、ペレットを小さく砕いてまぶしてみたが、やはり鶏頭しか食べていない。
 11月3日 ZOOクイズラリー開催
 11月4日 コツメカワウソ(仔、ベル)、ペレットを選びながら少量食べる。選ぶ基準は不明。
 11月5日 コツメカワウソ(仔、ベル)、鶏頭とペレットのなめろう状のものは何と食べている。
 11月6日 **ちばZOOフェスタ2010 開催(11月7日まで)**



- 11月7日 コツメカワウソ(仔、ベル)、夕方の餌はそこそこ食べるが、日中の餌は親に依存している。朝のペレットは食べる気配なし。
 11月12日 エリマキキツネザル、アル(雄)とライル(雌)を入れ替え、アルを展示場に出す。
 11月13日 エリマキキツネザル、アル(雄)が展示場にすぐに出ないため、しばらくオープンにすると出ていく。夕方、入室するとすぐに箱の中に入る。
 ハシビロコウ、午前2回、午後2回No.9(赤リング)がNo.5(黄リング)の展示場に入る。No.9が落ち着かない。
 11月14日 ハシビロコウ、No.9、放飼直後は落ち着いているが、12時ごろ、No.9がNo.5の放飼場へ入り、闘争を始める。すぐにNo.9を室内へ収容する。
 カイウサギ(フレミッシュジャイアント)撮影会を実施
 ワンポイントウォッチング開催(コツメカワウソ)
 11月15日 キジ類・猛禽類、全羽、ニューカッスルの予防接種を行う。
 11月18日 コツメカワウソ(仔、ベル)、朝のペレットは食べている。ドジョウは岸で待つだけで水に入らず。
 11月19日 本日より当分の間、アヒル・ガチョウを鳥インフルエンザ対策のため放飼場へ出さない。
 11月21日 ニシローランドゴリラ(雌、ローラ)、発情。キーパーに激しくプレゼンティングする。給餌機設置、ケンタが利用する。
 11月26日 ワオキツネザル、雄2頭、日中室内で同居する。
 11月27日 ZOOキッズデー開催
 11月28日 ワオキツネザル、雄2頭、夜間も同居させる。
 ムフロン(雌、ラン)、朝、すでに起立できず。予備室へ移動し治療。
 11月29日 ムフロン(雌、ラン)、死亡。
 ヒロハシサギ(若3羽)、トキ舎に出す。両隅に分かれていた。
 11月30日 子ども動物園のウマ類、全頭削蹄する。
 12月2日 ショウガラゴ(2頭)、繁殖。
 12月4日 コツメカワウソ(仔、ベル)、ドジョウ給餌時、池には入るがドジョウを追わずに人に向かって鳴いている。
 ラマ(シロ)、朝から元気がない。輸液、抗生剤、保温等を行うが徐々に元気がなくなる。
 12月5日 ラマ(シロ)、朝、死亡していた。
 ワンポイントウォッチング開催(カオムラサキラングール)
 12月7日 レッサーパンダ、新獣舎の工事開始。風太、少し落ち着かない。
 12月9日 プレーリードッグ(雄2頭、雌3頭)、富山ファミリーパークへ搬出。
 12月17日 シチメンチョウ、トナカイとバイソンの間の植え込みのところを囲って、そこに放す。
 12月18日 クロザル、マウント、交尾。
 12月19日 クリスマスシアター開催
 12月26日 エリマキキツネザル、予備室の個体(雌、イチ)発情のため一日中大騒ぎ。
 12月27日 **カイウサギ(ネザーランド ドワーフ雄1)、新着。**



編集後記

今冬は、乾燥注意報が1ヶ月以上も続き、園内の木々もカラカラ。それでも立春が過ぎ春の陽射しを待ち望んでいた園内の木々はしっかりと芽吹き始めました。園内の動物たちも待ち焦がれていたように活発な動きをするようになりました。今年の桜は、平年並みの開花との予想が出ていますが、3月下旬には、園内の桜を楽しみにご来園される方で賑わいを取り戻せると願っています。

来年度は、このニュースの発行も多少変化いたします。詳しくはHP等でお知らせいたしますので、お待ちいただければと思います。

どうぶつこうえんニュース編集委員



アカハナグマ

動物取扱業者標識

①氏名又は名称	千葉市
②事業所の名称	千葉市動物公園
③事業所の所在地	千葉市若葉区源町280
④動物取扱業の種別	展示
⑤登録番号	第50015号
⑥登録年月日	平成19年7月30日
⑦有効期間の末日	平成24年7月29日
⑧動物取扱責任者	飼育課長 小林 正典



サポーター会員募集

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「サポーター会員」を募集いたします。

年会費(入会日～翌年入会月末)

個人会員 1口 1,000円

法人会員 1口 10,000円

オリジナルグッズ
プレゼント

サポーターズデイに
無料で招待

お問い合わせは ☎043-252-1111



Information

平成23年3月～6月の催し物一覧

3月13日 日 ワンポイントウォッチング⑧(水禽池)

3月20日 日 ZOOクイズラリー(雨天順延)

5月14日 土・15日 日 バードウィーククラフト教室

5月22日 日 ゆかいな森の音楽会(雨天中止)

6月5日 日 ヒツジの毛刈り教室

詳しくは <http://www.chibazoo.net/> どうぞ

法人サポーター会員 (順不同)

(株)西原テクノサービス東関東支店
(株)さわらび
大西総業(株)
千葉都市モノレール(株)
(株)動物公園協力会
千葉県米穀(株)
ジェノスグループ(株)
エパタ(株)
(財)千葉市国際交流協会
(株)ニッセイアド
久野インターナショナル
(有)カンダ事務機
関東フローズン(株)千葉支店
(株)新星医薬商事
(株)小柳組
中田屋株式会社 千葉工場
千葉商工会議所
(株)加藤緑花土木
(株)和光物産商会
ノザキ建工(株)
利根コカコーラボトリング(株)
千年杉建設(株)
(株)石綿竹松商店
日東パシフィックベンディング(株)
(株)シューエイ商行
(株)久世
日本不動産管理(株)千葉支社
(株)昭和の森協力会
西原工業(株)
千星会
(社)千葉市観光協会

(平成23年2月15日)

どうぶつこうえんニュース第79号
平成23年3月1日発行

編集
発行

千葉市動物公園 <http://www.city.chiba.jp/zoo/>
(財)千葉市動物公園協会 <http://www.chibazoo.net/>
〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-city Japan.

[総合案内] ☎043-252-1111